

2月26日に行われた報告会（向かって右端が川上貞雄氏）

出土した木簡が年代を立証

「花押（かおう）の入った木簡では日本最古の物。しかも、まともに五十二点も出土した例は、全国的にもすばらしい……」と、二月二十六日、遺跡の発掘指導に当たった川上貞雄日本考古学協会会員から調査結果の報告がありました。

これまで本市の歴史については「信濃川の氾濫原で、およそ人々の寄り着く大地ではなく、古い歴史はない」とされてきましたが、正応の年号が記された木簡の出土で、鎌倉時代末期にはすでに人が住んでいたことが立証され、本市の歴史を追求する上で貴重な調査となりました。

今号では調査の概要をお知らせするとともに、現在進めている市史の編さん作業にどのようなかわりを持つかを探ってみました。

夢は鎌倉時代以前に

本市にも古い歴史があった！

言い伝えが今、現実に

今回の発掘調査地内は、昔から広い区域に不整形の田と点々と散在する「島」と呼ばれる盛り上がりがあった畑があった地帯で、田は昭和四年に耕地整理事業が着手されて、三十間×十間（五十四坪×十八坪）に整然と区画されました。

しかしながら畑地のほとんどはそのままに残され、しかもその範囲内には昔から馬場屋敷遺跡、馬場屋敷の塚、若宮様遺跡の三遺跡が存在していると言われ、文化庁からも遺物包含地として指定されています。したがって、同地で工事をする場合は、行政機関への届け出が義務付けられていました。

昭和五十六年二月、県知事から「昭和五十六年度以降庄瀬地区内では場整備事業を実施したい」旨の通知が、市の教育委員会へありました。

市教委では、事業計画の範囲内に三遺跡が含まれるため、県の文化行政課の指導を受けて五十

七年度に、これら遺跡地の範囲確認調査を行いました。

その結果、若宮様遺跡は五万一千五百平方メートル、馬場屋敷遺跡については七千五百平方メートルの範囲を確認。さらに、これらの北方に新たな埋蔵文化財包蔵地として興野遺跡八千平方メートルがあることを発見しました。

これに基づき、昭和五十八年度当初予算に四千五百二十万円を計上し、八月一日から本格的な発掘調査が開始されました。

馬場屋敷下層遺跡は偶然に発見

調査は、三遺跡（塚を含む）のそれぞれにわたって行われました。馬場屋敷の塚を除いた三遺跡から出土した陶磁器類は、ほぼ同一時期に作り出されたもので、遺跡別に性格や様相は異なっています。遺物から言えば、この三遺跡は、もとより一つの遺跡であったと考えられます。

ただ、発掘調査予定区域では遺跡として良好な遺構を検出した区

域は少なく、検出したその多くは目的を判明することのできない土坑や杭類、自然な大きなくぼみ、河川などでした。

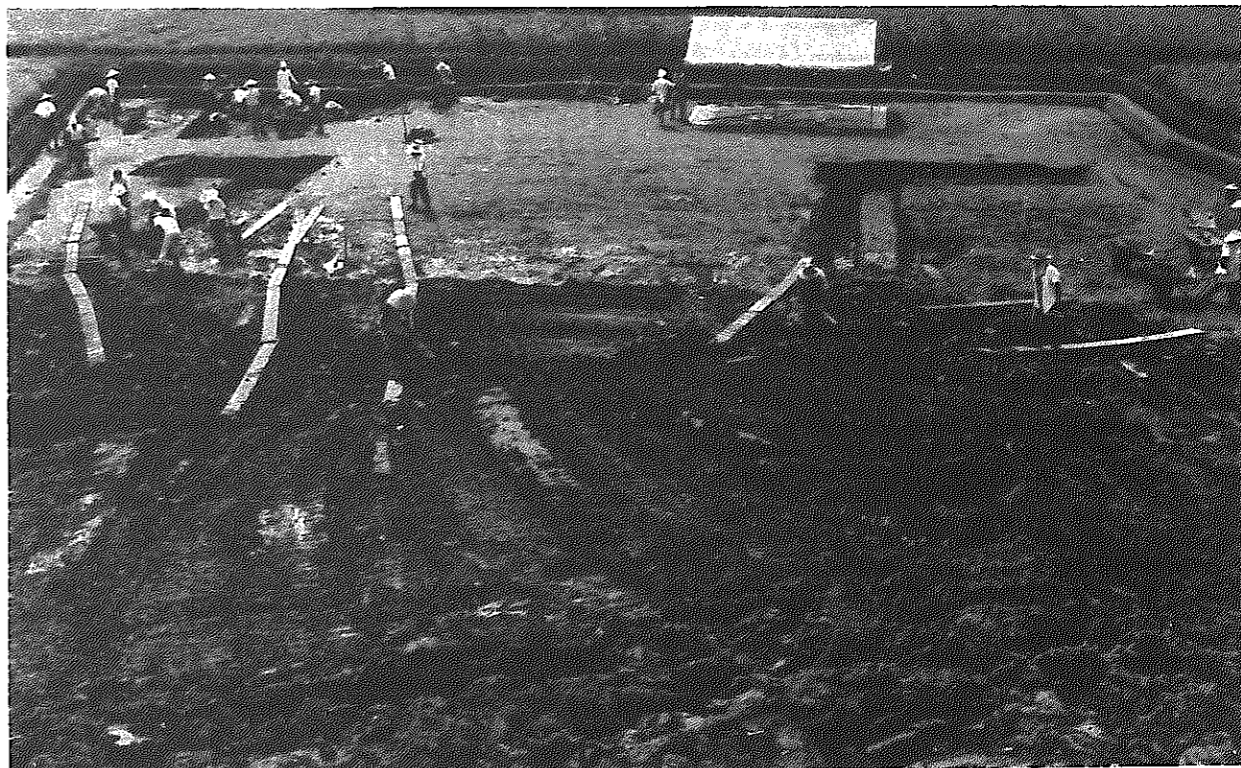
また、遺跡の性格を決めつけるわけにいきませんが、若宮様の掘立柱類などから見ると、集落跡が考えられます。

湧沼に添ってかなり広い範囲に及ぶもので、集落の営みは出土した陶磁器類や寛永通宝から十五世紀、十六世紀を中心に、十七世紀まで存続したことが知られます。

日本最古の木簡を発掘した「馬場屋敷下層遺跡」は、偶然に発見され、当然ながら上層の三遺跡よりも古いものです。

一部の調査にもかかわらず、上層の全遺跡に匹敵する量の遺物が出土し、遺構としては特異な形態の建物跡や細杭によって保護、区画された墓跡群が検出されました。

この遺跡で特筆されることは、正応四年・五年・六年（一一九一年・一一九二年）と延慶二年（一一三〇年）の紀年銘が記された木簡が出土されたことが上げられます。



掘り起こされ、高く積まれた土の山から発掘現場を見る（58年9月撮影）

「建仁元年清水には真言宗の寺があった」 「貞永元年農民800人が本市を開墾」

中世の伝承

今回発掘された「木簡」に記されている年代ごとの伝承には、次のようなものがあります。

- 享和三年（一八〇三）『越後国蒲原郡村坂名附帳』（新発田市立図書館）
真木新田、飯島新田
牛崎村、庄瀬村 弥彦荘
- 『越後風俗志』

「貞永元年（一一三二）守護職北條名越越後守朝時、旧領地遠江国より、農民八百人を蒲原に移し、不毛の地を開かしむ」と旧記に見ゆ。案ずるに、今の小吉東島條（本市）の辺なるべし。

- 『新津市史』（昭和二十七年）
笠巻村、和泉、十二道島、赤浜村は中世末に新津氏の領地。
- 『清水沿革誌』（山田孝氏所蔵）

建仁元年（一一三〇）の条「ほとんど蝦夷地に似たりといえども、真言宗の寺あり。相当有徳の僧の来たり建設せる物なり。また外に、道場といひ宗門会談の場に供す。明治十四年、田地掘さくの際、三枚田に寺院の形跡ありしを発見す。

以上これらの伝承をまとめると、名目的には弥彦荘に属してはいたが、北條氏という開発領主の管掌下にあったといひ、新興土豪の新津氏に替った可能性も見受けられる。また、清水の辺りは農業を営む寒村であったが、遊行の僧が寺院を建立し、村民を教導したと伝えられている。